



令和 7（2025）年度 自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校

2026 年 7 月 10 日作成

評価の結果

結果	内容
3	基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
2	概ね基準を満たしている
1	基準を満たしておらず改善が必要

専修学校における学校評価ガイドライン（令和8年3月）による評価項目と評価の基準

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目1 教育理念・目的・ 目標	1 教育理念、目的及び 目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に 設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3

教育理念・目的・目標 評価結果への所見

1. 学校の教育理念・目的及び目標の設定等

本校の教育理念は、『汝自らを求めよ』＜自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだし、それをあくまで追求する喜びが、すべての人間に与えられていることを意味する＞である。これは河合塾グループの共通理念でもある。この教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して明確にしている。職業教育のいっそうの追求に向けた近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成25年度において改めて検討のうえ宣言することにした。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます。」である。これを、トライデント全校を貫く共通的な教育理念とした。

各学科の教育目標は次の通りである。

<語学系：「英米語学科」、「グローバル学科」の語学系専攻>

語学系学科である「英米語学科」、および「グローバル学科」の語学系専攻は、実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」「職業体験」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。

<サービス系：「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」、「グローバル学科」のサービス系専攻>

サービス系学科である「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」、および「グローバル学科」のサービス系専攻は、“ビジネス能力・対人サービス能力およびホスピタリティマインド”に優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育の理論と実践とを融合させている。

また、グローバル学科では、1年次終了後に1年間海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加え、その地域の文化に直に触れることにより、より国際的理解を深めることも目標としている。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目 2 教育課程、教育 の実施、学修成果	1 教育課程の編成と授 業科目	①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	3
		②外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 10 単位以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3
	2 教育の実施	①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3
		②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	2
	3 単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	2
	4 学修成果目標の達成 状況	卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2
		学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	2

教育課程、教育の実施、学修成果、評価結果への所見

1. 教育課程の編成と授業科目

＜英米語学科・グローバル学科の目指す育成人材像（英語＋アジア言語）＞

①6つの軸（1. 多様性を理解して考えられる国際感覚、2. 高い実務能力、3. 高い英語力、4. 国内外に関する文化・歴史等を理解、多言語で発信できる力、5. 英語力を活かした高いコミュニケーション力、6. キャリア開発）に基づいてカリキュラムマップを作成し、目指す育成人材像の達成に繋げている。

＜国際エアライン学科・グローバル学科の目指す育成人材像＞

①6つの軸（1. 高い英語力、2. 高い実務能力、3. 語学力を活かした高いコミュニケーション力、4. キャリア開発、5. 多様性を理解して考えられる国際感覚、6. 国内外に関する文化・歴史等を理解、多言語で発信できる力）に基づいてカリキュラムマップを作成し、目指す育成人材像の達成に繋げている。

<国際ホテル学科・グローバル学科（デュアル・ウェディング含む）の目指す育成人材像>

①6つの軸（1.ホスピタリティ、2.理論と実践との融合、3.企画力・現場即戦、4.世界に通じる国際感覚（多様性）、5.高い技術・リーダーシップ・営業力、6.キャリア開発）に基づいてカリキュラムマップを作成し、目指す育成人材像の達成に繋げている。

<全学科共通>

②日本語能力検定や留学生サポートの授業を設置し、留学生の日本での生活や日本語能力の向上、就職に向けた知識の習得を行っている。また、日本人学生と合同で実施する授業により留学生の日本社会の理解を促進できる教育を行っており、2024年度より「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定を受けている。

2. 教育の実施

<英米語学科>

①英語授業に関しては6段階にレベル分けを行い、少人数クラスで語学力に合わせた授業を提供している。また、発話を主とした授業を多く設置して、ビジネスの場における語学を活用したコミュニケーション力の強化に繋げている。韓国語専攻・中国語専攻では、それぞれ韓国の大学校・中国の大学への3か月間の短期留学を行い、語学だけでなく現地の文化・風習を学ぶ機会を設けている。

<国際エアライン学科>

①英語授業に関しては6段階にレベル分けを行い、少人数クラスで語学力に合わせた授業を提供している。実習授業では航空機のモックアップを設置した教室で授業を行い、実践的な行動について学んでいる。また、空港見学や韓国の航空会社と連携した現地での授業を行い、航空業界で働く為の知識習得に役立てている。

<国際ホテル学科>

①インバウンド需要の増加に伴い、ホテル業界で求められる語学力の向上に対応する為、Hospitality Englishなどの授業を設置している。実習授業では校内のバンケットルーム教室を利用し、宿泊・料飲サービスに関する実践的な行動について学んでいる。また、実際のホテルの見学や実習・インターンシップを通じて就業観の醸成に繋げている。

<全学科共通>

②業界研究授業では卒業生や企業の担当者に来校いただき、業界や職種に関する講話を通じて学生の業界知識の向上と就業観の醸成に繋げている

3. 単位・卒業認定

学科ごとに進級・卒業要件を設定し、就職後に求められる語学力の向上や資格取得を促している。進級・卒業については進級・卒業認定会議を実施して認定している。

4. 学修・成果目標

担任が年に6回の面談を行い、目標の設定・進捗状況の把握・達成状況の確認を行っている。また、卒業時にアンケートを行い、在学時の個人ごとの目標達成状況も把握している。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目3 学生の受入れ、 学生支援	1 学生募集及び入学者 の選抜、収容定員の 管理	①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3
		②学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2
	2 自主的な学習の促進 に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3
	3 多様な学生に対する 支援	①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。	2
		②特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3
	4 学生生活に関する支 援	①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	2
		②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	2
		③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	2
		④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2
		⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3

学生の受入れ、学生支援

1. 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

- ①入学者の受け入れ方針、入学選考方法・定員は、Web サイトと募集要項に明記している。オープンキャンパスでは入学選考について説明の時間を設け周知している。一例として、選考方法、日程、学費、奨学金等。また、日本語学校生向けの学校見学会、入学説明会を実施している。入学選考を実施、学内で決定した合格基準に基づき可否判定を行っている。
- ②定員内での募集を行っている。

2. 自主的な学習の促進に対する支援

早期に入学を決めた学生に対しては入学前講座を開催し、本校での学びに向けた準備を各自で行うように促している。学習状況に基づいて必要な学生には個別指導を行っている。また、学生の自主性を促す為、企業や団体からの案内に基づいて様々なボランティア活動の紹介を行っている。

3. 多様な学生に対する支援

- ①多様な留学生を支援するために専門のスタッフを配置して、学校生活を円滑に過ごせるよう支援している。
- ②留学生交流会、留学生向け就職対策講座、ビザ切替セミナー、毎週の留学生サポートなどを通じて留学生の日本での生活や日本語能力強化、授業受講に関するサポートを行っている。

4. 学生生活に関する支援

- ①専用の相談室にカウンセラーを配置し、学生からの相談には匿名性を確保して対応できている。
- ②教員による担任制度により、留年や退学予備軍を早期に発見し、必要に応じて適宜面談を行い、学生への改善の促しや学生のニーズの確認を行っている。留年及び退学が決まった後には保護者を交えた面談を行っている。
- ③校医を配置し、その指導に基づいた学校保健計画を策定している。保健室を設置し、急な体調不良者への対応も適切に行っている。
- ④修学支援の担当者を配置し、奨学金に関する説明会の開催や学生からの問合せに適切に対応できている。
- ⑤担任による定期面談の他、キャリアセンターからの求人案内、オンライン面接ブースの設置、添削指導や面接指導を通じて学生の就職活動の支援を行っている。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目 4 教育実施組織・ 教員	1 教員の配置、募集、 採用	①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	2
		②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3
	2 教員の組織編制等	①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2
		②教員間で連携、協力体制を構築していること。	2
	3 教員の資質の向上	①学校の教育活動の改善、工夫を行う FD(Faculty Development)などの取り組みや、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3
		①-2 特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	2
		②教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	2

教育実施組織・教員

1. 教員の配置、募集、採用

- ①教育課程を実施するのに必要な資格・要件を備えた教員を確保するために教員の採用基準を整備し、適正に運用している。特に、専門分野と密接に関係した実務経験を採用基準の一つとして重視すると共に、教育や学生指導に対する情熱を持っていることを条件としている。
- ②半期ごとの時間割作成の際に、常勤・非常勤の授業時間数を把握している。また、教員の年齢状況も把握し、教員採用の参考にしている。その他、教員同士の授業見学や学生からの授業評価アンケートを通じて教員の教授力を把握、評価している。

2. 教員の組織編成等

- ①学科ごとに学科長の教員を配置し、非常勤の教員を含め授業内容のコントロールを行っている。
- ②教職員合わせて業務分担表を作成し、常勤講師は授業以外の学内イベントの計画や運営にも携わっている。

3. 教員の資質の向上

- ①年に2度、常勤・非常勤の教員を対象とした FD(Faculty Development)研修を開催し、教員の教育活動の質向上に繋げている。その他、教員の自己啓発を促す為、セミナー等の受講費用の補助を行っている。
- ①-2 教育課程編成委員会に関連業界の企業を招き、教育課程に対する助言の他、業界の最新事情について提言いただき、教員の業界情報の把握に繋げている。
- ②企業見学の機会を定期的に設け、引率した教員も業界及び企業情報の把握が出来る環境を整えている。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目 5 教育環境	1 教育環境の整備	①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	3
		②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	2
		③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	2
	2 安全対策、防災組織	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2
		②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	2
	3 施設・設備等の点検、改善等	①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	2
		②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3

教育環境

1. 教育環境の整備

- ①全館に学生が利用可能な Wi-Fi 設備を整えており、課題の提出もオンライン化への変更を進めて DX 化に対応している。実習授業に関してはエアラインのモックアップ教室やホテルのバンケット実習室を整備して実践的な学びができる環境を整えている。
- ②授業時間以外は教室を学生に開放しており、食事・休憩や自習に自由に利用できる環境となっている。
- ③情報センターには各学科に関する専門書や雑誌等を配架し、学生が自由に閲覧して幅広い知識を得ることが出来る。

2. 安全対策、防災組織

- ①災害発生時の危機対応マニュアルを作成して、緊急時に備えている。緊急時の対応については教員並びに学生に対しても教員の手引きや学生便覧に掲出し、周知している。
- ②火災時の対応マニュアルを周知していると共に、年度に一度防災訓練を行い、緊急時の対応について改善点を確認している。

3. 施設・設備等の点検、改善等

- ①施設・設備について日常点検および定期点検を計画的に実施し、必要な補修を迅速に行う体制を整えており、その記録を適切に保管して安全で良好な教育環境の維持に努めている。
- ②校舎・設備の改築・改修および更新に関する中長期計画を定期的に見直し、優先順位付け、予算配分、施工スケジュールを明確化している。計画立案にあたっては、河合塾学園とも連携し、また、施工は関係法令・安全基準に従って実施し、完了後は性能確認と利用者への周知を行っている。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 評価結果
項目 6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1 中期事業計画と財務基盤	①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3
		②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	2
	2 学校運営	①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	3
	3 学校評価の実施と改善活動	①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	2
		①-2 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。【注】職業実践専門課程】	2
		②学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	2
		③学校評価の結果に基づく改善への取組みを組織的かつ継続的に行っていること。	2
	4 社会からの理解と情報の公表	①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	2
		②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得よう取組んでいること。	2

教育活動の基盤と改善・向上

1. 中期事業計画と財務基盤

- ①トライデント VISION2030（2030 年度のありたい姿）を策定し、社会の変化に柔軟に対応し、常に挑戦・進化し続け存在感のある学校を目指している。また、3 か年ごとの中期計画も策定し、重点課題や施策の整理を行っている。
- ②専修学校における教育活動を安定して行う為の十分な財務基盤を確立している。

2. 学校運営

- ①教育の企画と実施及び学生の就職活動の支援に関しては「教務・就職チーム」が担当し、募集に関しては「入学広報チーム」が担当しており、それぞれの分野においての責任を担っている。専門学校事業全体の運営について事業企画部を設置しており、グループ 3 校のマネジメントを行っている。定期的に河合塾グループの内部監査を受けており、学校運営が適切に行われているか確認している。

3. 学校評価の実施と改善活動

- ①学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を定期的に開催し、外部関係者からの提言を学校運営に取り入れている。

- ①-2 教育課程編成委員会は 8 月と 2 月の年 2 回開催し、毎回各学科の関係企業及び団体の有識者から教育活動に関する提言をいただき、カリキュラムへの反映を行っている。
- ②自己点検評価を年 1 回行い、結果及び改善への取組みについてはホームページ上で「自己点検・自己評価報告書」を公表している。
- ③年に 1 回「学校関係者評価委員会」を開催し、委員からの助言に基づいて学校の課題改善への取組みを組織的かつ継続的に行っている。また、「学校関係者評価結果」をホームページ上で公開している。

4. 社会からの理解と情報の公表

- ①ホームページ上の学校公開資料において、各学科の教育活動・事業報告書・シラバス・成績状況などを公開している。
- ②海外留学者の情報や資格取得状況・内定先情報についても適宜ホームページ上で公開し、学校の取組みに対する理解を得る為の活動を行っている。